



第57期 中間報告書

2015年4月1日～2015年9月30日



インヴァスト証券株式会社

証券コード：8709



代表取締役社長 川路 猛

Q 2015年9月中間期の環境と業績をどのように分析していますか？

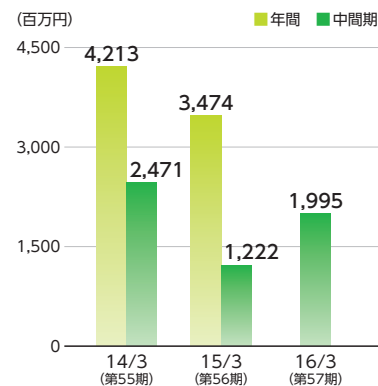
A 2015年9月中間期の事業環境は、概ね堅調に推移いたしました。ギリシャ問題や中国経済の不透明感、アメリカの利上げ観測など、世界経済を取り巻く諸要因を背景に、為替相場のボラティリティが拡大し、当社グループが展開する取引所FX取引、店頭FX取引はいずれも好調を維持しました。

また海外金融事業についても、オーストラリアのInvast Financial Services Pty Ltd. (IFS) が着実に業容を拡大し、同社の預かり資産は本年初頭比で4倍超に増加しています。

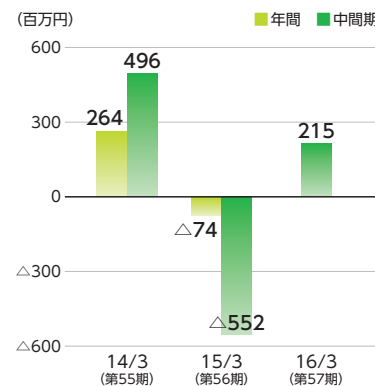
この結果、2015年9月中間期の連結業績は、営業収益19億95百万円（前年同期比163.2%）、営業利益は2億32百万円（前年同期は5億81百万円の営業損失）、経常利益は2億15百万円（前年同期は5億52百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する中間純利益は93百万円（前年同期比41.8%）となり、増収増益を達成いたしました。

良好な事業環境に加え、当社グループがこれまで推進してきた収益力強化の取り組みがシナジーとなり、好業績として結実したものと受け止めています。

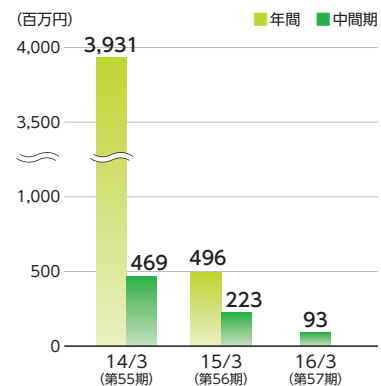
営業収益



経常利益



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益



Q 御社の経営理念と競争優位性についてご説明ください。

A 当社グループの意思決定と行動を律する最重要の理念は「誠実」であることです。

2012年にミッション・ビジョン・バリュー (MVV) を策定し、お客さまに誠実に対応し、誠実なサービスのご提供に努めることを、当社グループの最も大切な価値観・文化と定めました。

誠実とは、常にお客さまの視点で物事を考え、お客さま本位のサービスを創出・提供していくことであり、同時に第三者の専門家の批判に耐えうる経営姿勢を堅持していくことです。

この観点から、当社は本年6月、監査等委員会設置会社への移行を決定しました。

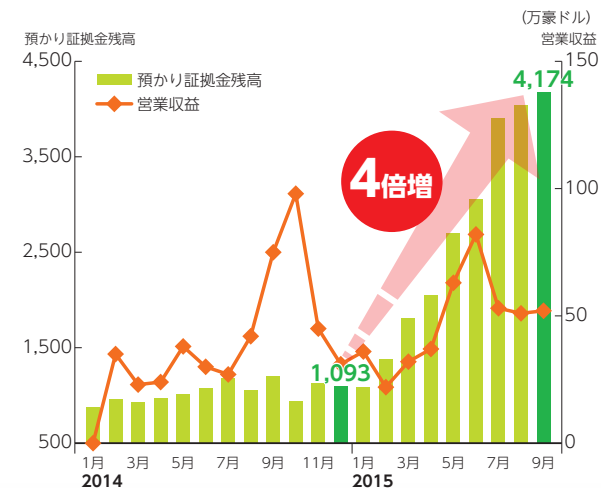
当社グループはまた「驚きと感動」の創造を標榜し、お客さまのご期待を上回るサービスのご提案に注力しています。

企業の基本的な価値観や文化は、企業の意思決定に影響を与え、企業の品格を表します。MVVがあらゆる企業活動に厳格に適用されていることが当社グループの競争優位性の源泉だと認識しています。

また、当社は大株主の正しい見識と公正なマインドが一貫した経営理念の保持と中長期的な経営戦略の遂行を支えています。

こうした資本構成上の特色も、当社グループの強みのひとつだと捉えています。

IFS預かり証拠金・営業収益推移





トップインタビュー



新規事業（株式関連事業）へ参入された理由をお聞かせください。



インヴァスト証券では、2016年春にふたつの高付加価値な株式投資サービスを開始します。選択型外国株式CFD「トレンドポートフォリオ」と、世界初となるETF特化型証拠金取引「トライオートETF」です。当社が過去に実施した個人投資家向けのアンケートによりますと、58.5%の方が「外国株式は今後も購入する予定はない」と回答しました。その理由として、第1に外国株は為替リスクがあること、第2に商品や市場に関する情報が少ないことを挙げています。世界の株式時価総額の41%はアメリカ市場（ニューヨーク+ナスダック）が占めており、日本市場の占有率はわずか7%に過ぎません。（2015年2月末時点）

世界3位の経済大国である日本の個人投資家が日本というローカルマーケットに限定して資産運用を行っていることは、憂慮すべき状況と考えました。

そこで当社では、新サービスの開発に当たり、差金決済（CFD）の形態を採用することで外国株投資の最大のネックである為替リスクを大幅に軽減することに成功しました。この手法では、投資元本は円のまま保全され、購入株式の評価損益と売却したときの実現損益のみが替レートの影響を受けます。元本は外貨に替えないため為替リスクから自由になるわけです。

当社グループは、このふたつのサービスを日本市場に投入することで、グローバルな分散投資の新しい手法と新しい価値を個人投資家の方々にご提案したいと考えています。

将来的には、株式関連サービスを将来的にFXと並ぶグループ収益の柱に育成し、それを原動力として、さらなる成長を実現してまいります。



グローバル展開はどのように進めていきますか？



インヴァスト証券は経営理念の「ビジョン」において、「世界中から優秀な人材が集まる」会社になることを掲げています。

世界中から人材が集まることとは、地球規模で事業を展開していくことに他なりません。

当社グループにとって「必然」とも言えるこのグローバル展開の第一歩として、2013年2月にはオーストラリアのシドニーにIFSを設立しました。IFSはほぼすべてローカル採用の社員という現地密着型の体制で、店頭FXをはじめとする独自性ある商品・サービスをお客さまにご提供しています。IFSでは、B to Bへの事業モデル転換による大手法人顧客の取引開始や、2014年12月にリリースした新サービス、取引所約定型個別株証拠金取引「DMA CFD」が本格寄与し、預かり資産は順調に拡大してきました。

当社グループは今後、オーストラリア以外での拠点設立も視野に、グローバルな事業基盤の構築をさらに加速させていく方針です。



2016年3月期通期の見通しと主な施策についてご説明ください。



2016年3月期下期の経営環境は、前期に引き続き堅調に推移するものと見ています。

相場環境としては波乱要因の多い不安定な状況ですが、それは同時に、為替相場のボラティリティが拡大し、当社のお客さまにとって取引のチャンスが増えることを意味します。

当社グループは「シストレ24」や「トライオートFX」など基軸商品・サービスの拡販と株式関連サービスの基盤確立に努めるとともに、「誠実」を重んじる企業文化のさらなる深化を図り、当社ならではの価値を社会に発信してまいります。



株主の皆さまへの利益還元方針についてお聞かせください。



当社は株主の皆さまへの利益還元を最重要の経営課題のひとつに位置づけています。

本年9月には配当方針の見直しを行い、株主の皆さまへの利益還元の機会を充実させるため、当期より中間配当を実施することといたしました。

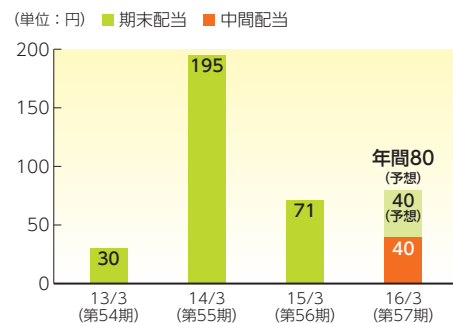
また、継続的かつ安定的な配当を実施するため、連結純資産配当率（DOE）を配当方針の指標として追加することといたしました。

配当は、**連結配当性向30%または連結純資産配当率（DOE）4%（年率）のいずれか高い方**を目安とし、実施いたします。

当期の中間配当金は、DOE4%（半期2%）を基準とし、1株につき40円とさせていただきます。当社グループはこれからも、安定的な配当と着実な利益成長による企業価値の持続的拡大を通じて、株主の皆さまのご期待に応えてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

■ 配当実績／配当予想



■ 配当状況

	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期
中間配当	0.0円	0.0円	0.0円	40.0円
期末配当	30.0円	195.0円	71.0円	40.0円 (予想)
配当性向	32.0%	30.2%	83.4%	
ROE	5.9%	32.0%	4.0%	
DOE	1.9%	9.6%	3.3%	
配当利回り	2.7%	14.8%	6.1%	

※配当利回りは各年度末の終値より算出しております。

連結財務諸表(要旨)

■ 連結貸借対照表 (単位: 百万円)		
科 目	当中間期 2015年9月30日現在	前期中 2015年3月31日現在
資産の部		
流動資産	92,113	85,422
固定資産	1,727	1,845
有形固定資産	168	194
無形固定資産	673	746
投資その他の資産	885	904
資産合計	93,840	87,268
負債の部		
流動負債	82,075	75,137
固定負債	177	197
特別法上の準備金	29	29
負債合計	82,282	75,364
純資産の部		
株主資本	11,523	11,847
資本金	5,965	5,965
資本剰余金	2,313	2,313
利益剰余金	3,289	3,612
自己株式	△ 44	△ 44
その他の包括利益累計額	33	55
其他有価証券評価差額金	48	49
為替換算調整勘定	△ 15	5
新株予約権	1	1
純資産合計	11,558	11,903
負債・純資産合計	93,840	87,268

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書 (単位: 百万円)		
科 目	当中間期 2015年4月 1 日から 2015年9月30日まで	前期中 2014年4月 1 日から 2014年9月30日まで
営業収益	1,995	1,222
受入手数料	524	281
トレーディング損益	1,250	744
販売費・一般管理費	1,762	1,803
営業利益又は営業損失(△)	232	△ 581
営業外収益	0	32
営業外費用	17	2
経常利益又は経常損失(△)	215	△ 552
特別利益	—	1,035
特別損失	—	22
税金等調整前中間純利益	215	460
法人税、住民税及び事業税	136	39
法人税等調整額	△ 14	197
中間純利益	93	223
親会社株主に帰属する中間純利益	93	223

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)		
科 目	当中間期 2015年4月 1 日から 2015年9月30日まで	前期中 2014年4月 1 日から 2014年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,229	1,272
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 90	△ 483
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 416	△ 1,180
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 20	△ 0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,757	△ 391
現金及び現金同等物の期首残高	6,101	6,120
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,343	5,729

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社・株式情報 (2015年9月30日現在)

■ 会社概要

社 名 インヴァスト証券株式会社
所 在 地 〒105-0003
東京都港区西新橋一丁目6番21号
設 立 1960年8月
資 本 金 59億6,508万円
事 業 内 容 金融商品取引業
連結子会社 Invest Financial Services Pty Ltd.

■ 役員構成

代表取締役社長 川 路 猛
専 務 取 締 役 水 戸 部 茂
常 務 取 締 役 三ヶ田 裕 信
取 締 役 鶴 見 豪
取 締 役 川 路 耕 一
社 外 取 締 役
(監査等委員) 岩 田 拓 朗
社 外 取 締 役
(監査等委員) 淡 輪 敬 三
社 外 取 締 役
(監査等委員) 安 藤 ま こと

■ 株式の状況

発行可能株式総数 25,000,000株
発行済株式の総数 5,904,400株
(うち、自己株式の数) 36,535株
株主数 3,426名

■ 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
川 路 耕 一 信 託 口	3,136,100	53.45
KYエンタープライズ株式会社	443,800	7.56
川 路 洋 子	175,400	2.98
川 路 猛	141,500	2.41
北 村 悟	70,600	1.20
川 路 耕 一	65,800	1.12
日本証券金融株式会社	50,100	0.85
岡 芳 樹	50,000	0.85
楽 天 証 券 株 式 会 社	40,400	0.68
大 谷 修	40,000	0.68

(注) 持株比率は自己株式(36,535株)を控除して計算しております。



インヴァスト証券IR Facebookページ&Twitterアカウント開設

当社の株主・投資家の皆さまに向け、IR情報、決算・財務情報、株式に関する情報等をリアルタイムに配信してまいります。
皆さまの「いいね!」&「フォロー」をお待ちしております。



インヴァスト証券 IR室
Facebookページ

■ インヴァスト証券 IR
Facebookページ

URL▶<https://www.facebook.com/invast.ir>



インヴァスト証券 IR室
Twitter アカウント

■ インヴァスト証券 IR
Twitterアカウント
(@invast_ir)

URL▶https://twitter.com/invast_ir

■株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 Tel 0120-288-324（フリーダイヤル）
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel 0120-232-711（通話料無料）
上場市場	東京証券取引所 JASDAQ市場
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.invast.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 1.株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
株主名簿管理人（みずほ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。
株主名簿管理人であるみずほ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
- 3.未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行（トラストラウンジを除く）、みずほ銀行、みずほ証券の各本支店でお支払いいたします。

配当金のお支払期限について

当社定款の規定により、配当金を受取る権利は、支払開始後3年を経過しますと消滅いたしますので、お早めにお受取ください。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。